



がっこうだより

枚方市長尾西町2丁目45番1号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0_2.html

枚方市立西長尾小学校

令和4年3月号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
考えて行動できる子ども）
3. 心身ともに健康な子ども

かかわりあうことでしか成し得ないこと

—— 集団の中でしか得られないもの



授業観察のために教室棟の廊下を歩いていると、体育館などで練習している6年生の「情熱大陸」の曲の演奏が聞こえてきます。ドラムや鉄琴、鍵盤楽器などの、力と勢いのあるメロディに、つい立ち止まり、聴き入ってしまいました。

卒業や進級に向け、今まで培ってきた力を表現する場として3月9日に予定されている「6年生を送る会」。新型コロナウイルス感染予防対策のため、動画による交流となりますが、その動画作成のために、各学年とも、楽器演奏や合唱、群読や呼びかけなどを日々、練習しています(西長尾小学校ブログにもその様子を載せています)。

集団で、一つの表現をするという芸術的な活動は、集団でしかなしえない教育的な効果を生み出します。集団で表現する一体感には、協力してより良いものを作り上げようとする意志力がその土台に存在します。その意志の力は、一緒に取り組む他者への思いやりの心です。その美しい心が一体となることで、「感動」という「心のメッセージ」が、聴く人にも届き、さらにその感動は増幅され、演奏する側にも帰ってくるのです。

芸術は心の奥の本質的な部分に直接訴えかける力を持っています。例えば絵画を見たとき、なんだか不思議に感動したり、新しい考えがひらめいたり、悲しい気持ちになったり、言葉ではうまくいえないけれども、心に波風が立つこともあります。それらの感動を、自分の言葉で正しく伝えあうことができれば、素敵ですね。

人と人の心をつなぐ「言葉の力」を磨く指導について右に紹介します。

「400字創作戯曲づくり」について



自分の気持ちをきちんと伝えられる力を持つことは、子どもの自信を育てるだけでなく、子どもたちどうしのコミュニケーションの質が高くなることに必ずつながっていきます。

子ども自身が創作物の作者になることで、言葉によって楽しく交流できる教育活動として、現在試みているものが、「400字創作戯曲づくり」(台詞だけの物語づくり)です。継続して取り組めば、漢方薬のように、子どもの振り舞いや言動に「他人への配慮」が込められるようになることを期待しています。下に一部を紹介します(3年生の作品です)。

おかえり!

鈴 母さんまだかえってこないね。
花 うん。
鈴 おなかへったねー。
花 おなかペコペコだよー。
鈴 なんか作ろっか?
花 うん!
鈴 なにたべたい?
花 プリン!
鈴 デザートは、だめ!
花 プリンがいいー。
鈴 ほかの物!
花 えーっと……チャーハン!
鈴 わかった!
花 プリンも!
鈴 はいはい。
花 ん? 今カチッて音がしたような……。
鈴 わたしもきこえた!
花 ってことは……。
鈴 うん!
鈴・花 母さんおかえりなさい!

やればできるやん!

母 今日、早く外にしゅう合できるんちゃう?
私 ほんまや! 早い!
母 いつも「はよーやー」っていわれてんのに。
私 こんかいは、言われたくない!
母 こんかいつつーか、毎日し!
私 ひえー。わかったから。
母 ほんまにかー?
私 ハハハッ。
母 なにわらっとんねん!
私 ごめんごめん。
母 はなしてる間に時間なくなる! けど、今日は、やればできたね!
私 ありがと! いってきまーす!
母 はい。
私 あっ、わすれもの!
母 はい。またかえってきたわー。
私 そんないやな目すんな!
母 ごめん。いってらっしゃい。

※ 右の作品のように、11月の「がっこうだより」で紹介した、「心のひとことスピーチ」の延長線上にこの取り組みは位置づけることができます。

これまでは、3年生での取り組みをブログでも紹介しましたが、今後は、取り組みを広げていきます。

参考:上の作品は、心のひとことシートに書かれた下記内容に基づいて書かれました。

- ・心に残ったひとこと
- ・「やればできるやん」
- ・時 朝のとうこうはんのあつまり
- ・場 家
- ・人物 お母さん

